

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3142420号
(U3142420)

(45) 発行日 平成20年6月12日(2008.6.12)

(24) 登録日 平成20年5月21日(2008.5.21)

(51) Int.Cl.

A 4 7 B 97/00 (2006.01)

F 1

A 4 7 B 97/00

J

評価書の請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 17 頁)

(21) 出願番号 実願2008-1976 (U2008-1976)
(22) 出願日 平成20年4月1日(2008.4.1)(73) 実用新案権者 391021628
株式会社法月商店
静岡県静岡市葵区新伝馬一丁目6番69号
(74) 代理人 100092680
弁理士 入江 一郎
(74) 代理人 100154472
弁理士 新庄 孝
(72) 考案者 法 月 元 春
静岡県静岡市葵区新伝馬一丁目6番69号
株式会社法月商店 内

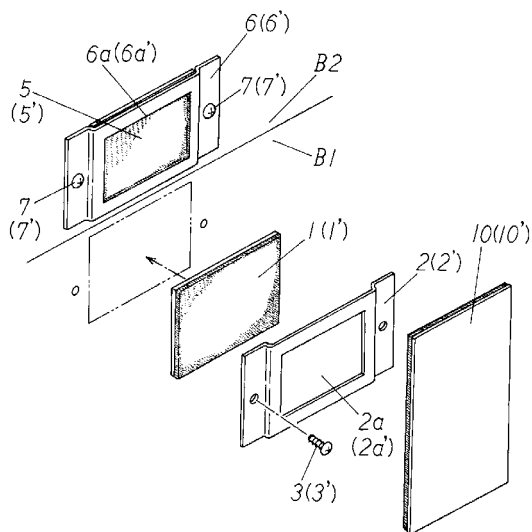
(54) 【考案の名称】 家具及び家具移動防止部材

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】複数の家具部材で構成された家具の家具部材同士の相対的移動を防止することができる家具を提供する。

【解決手段】家具は、第1の雄型面状ファスナー1の少なくとも周縁部を押さえてビス3により第1の家具部材B1に第1の雄型面状ファスナー1を取り付ける第1の枠体2と、第2の雄型面状ファスナー5の少なくとも周縁部を押さえてビス7により第2の家具部材B2に第2の雄型面状ファスナー5を取り付ける第2の枠体6と、この第2の枠体6と第1の枠体2とは、並設する位置関係にあり、第1の枠体2の開口部2aより突出する第1の雄型面状ファスナー1と第2の枠体6の開口部6aより突出する第2の雄型面状ファスナーとに亘って係合する雌型面状ファスナー10とを備えているものである。

【選択図】図6



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 の家具部材と、
 この第 1 の家具部材の上に位置する第 2 の家具部材と、
 前記第 1 の家具部材に取り付けられる第 1 の雄型面状ファスナーと、
 この第 1 の雄型面状ファスナーの少なくとも周縁部を押さえてビスにより前記第 1 の家具部材に前記第 1 の雄型面状ファスナーを取り付ける第 1 の枠体と、
 前記第 2 の家具部材に取り付けられる第 2 の雄型面状ファスナーと、
 この第 2 の雄型面状ファスナーの少なくとも周縁部を押さえてビスにより前記第 2 の家具部材に前記第 2 の雄型面状ファスナーを取り付ける第 2 の枠体と、
 この第 2 の枠体と前記第 1 の枠体とは、並設する位置関係にあり、
 前記第 1 の枠体の開口部より突出する前記第 1 の雄型面状ファスナーの部位と前記第 2 の枠体の開口部より突出する前記第 2 の雄型面状ファスナーの部位とに亘って係合する雌型面状ファスナーとを備え、
 前記第 1 の枠体及び前記第 2 の枠体の素材は、前記第 1 の雄型面状ファスナーの素材より硬く、且つ、前記第 1 の枠体及び前記第 2 の枠体の素材は、前記第 2 の雄型面状ファスナーの素材より硬い
 ことを特徴とする家具。

【請求項 2】

第 1 の家具部材と、
 この第 1 の家具部材の上に位置する第 2 の家具部材と、
 前記第 1 の家具部材に取り付けられる少なくとも第 1、第 1' の雄型面状ファスナーと、
 この第 1 の雄型面状ファスナーの少なくとも周縁部を押さえてビスにより前記第 1 の家具部材に前記第 1 の雄型面状ファスナーを取り付ける第 1 の枠体と、
 前記第 1' の雄型面状ファスナーの少なくとも周縁部を押さえてビスにより前記第 1 の家具部材に前記第 1' の雄型面状ファスナーを取り付ける第 1' の枠体と、
 前記第 2 の家具部材に取り付けられる少なくとも第 2、第 2' の雄型面状ファスナーと、
 この第 2 の雄型面状ファスナーの少なくとも周縁部を押さえてビスにより前記第 2 の家具部材に前記第 2 の雄型面状ファスナーを取り付ける第 2 の枠体と、
 前記第 2' の雄型面状ファスナーの少なくとも周縁部を押さえてビスにより前記第 2 の家具部材に前記第 2' の雄型面状ファスナーを取り付ける第 2' の枠体と、
 前記第 2 の枠体と前記第 1 の枠体とは、並設する位置関係にあり、
 前記第 2' の枠体と前記第 1' の枠体とは、並設する位置関係にあり、
 前記第 1 の枠体の開口部より突出する前記第 1 の雄型面状ファスナーの部位と前記第 2 の枠体の開口部より突出する前記第 2 の雄型面状ファスナーの部位とに亘って係合する第 1 の雌型面状ファスナーと、
 前記第 1' の枠体の開口部より突出する前記第 1' の雄型面状ファスナーの部位と前記第 2' の枠体の開口部より突出する前記第 2' の雄型面状ファスナーの部位とに亘って係合する第 1' の雌型面状ファスナーとを備え、
 前記第 1 の枠体及び前記第 2 の枠体の素材は、前記第 1 の雄型面状ファスナーの素材より硬く、
 前記第 1 の枠体及び前記第 2 の枠体の素材は、前記第 2 の雄型面状ファスナーの素材より硬く、
 前記第 1' の枠体及び前記第 2' の枠体の素材は、前記第 1' の雄型面状ファスナーの素材より硬く、
 前記第 1' の枠体及び前記第 2' の枠体の素材は、前記第 2' の雄型面状ファスナーの素材より硬い
 ことを特徴とする家具。

【請求項 3】

第 1 の雄型面状ファスナーは、基布に対して立設するフック状部材を有し、このフック状部材は、前記基布において、直線状に配列された一群のフック状部材が間隔を置いて複数形成されたものであり、

第 1 の枠体は、平面視、長方形形状の開口部が複数並設するものであり、

前記第 1 の枠体の前記開口部より前記第 1 の雄型面状ファスナーの一群のフック状部材が突出すると共に、前記第 1 の枠体の前記開口部の縁部で前記第 1 の雄型面状ファスナーの基布を支持し、

第 2 の雄型面状ファスナーは、基布に対して立設するフック状部材を有し、このフック状部材は、前記基布において、直線状に配列された一群のフック状部材が間隔を置いて複数形成されたものであり、

第 2 の枠体は、平面視、長方形形状の開口部が複数並設するものであり、

前記第 2 の枠体の前記開口部より前記第 2 の雄型面状ファスナーの一群のフック状部材が突出すると共に、前記第 2 の枠体の前記開口部の縁部で前記第 2 の雄型面状ファスナーの基布を支持するものである

ことを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 記載の家具。

【請求項 4】

第 1 の家具部材と、

この第 1 の家具部材の上に位置する第 2 の家具部材と、

前記第 1 の家具部材に取り付けられる第 1 の雌型面状ファスナーと、

この第 1 の雌型面状ファスナーの少なくとも周縁部を押さえてビスにより前記第 1 の家具部材に前記第 1 の雌型面状ファスナーを取り付ける第 1 の枠体と、

前記第 2 の家具部材に取り付けられる第 2 の雌型面状ファスナーと、

この第 2 の雌型面状ファスナーの少なくとも周縁部を押さえてビスにより前記第 2 の家具部材に前記第 2 の雌型面状ファスナーを取り付ける第 2 の枠体と、

この第 2 の枠体と前記第 1 の枠体とは、並設する位置関係にあり、

前記第 1 の枠体の開口部より突出する前記第 1 の雌型面状ファスナーの部位と前記第 2 の枠体の開口部より突出する前記第 2 の雌型面状ファスナーの部位とに亘って係合する雄型面状ファスナーとを備え、

前記第 1 の枠体及び前記第 2 の枠体の素材は、前記第 1 の雌型面状ファスナーの素材より硬く、且つ、前記第 1 の枠体及び前記第 2 の枠体の素材は、前記第 2 の雌型面状ファスナーの素材より硬い

ことを特徴とする家具。

【請求項 5】

第 1 の家具部材と、

この第 1 の家具部材の上に位置する第 2 の家具部材と、

前記第 1 の家具部材に取り付けられる少なくとも第 1、第 1' の雌型面状ファスナーと、

この第 1 の雌型面状ファスナーの少なくとも周縁部を押さえてビスにより前記第 1 の家具部材に前記第 1 の雌型面状ファスナーを取り付ける第 1 の枠体と、

前記第 1' の雌型面状ファスナーの少なくとも周縁部を押さえてビスにより前記第 1 の家具部材に前記第 1' の雌型面状ファスナーを取り付ける第 1' の枠体と、

前記第 2 の家具部材に取り付けられる少なくとも第 2、第 2' の雌型面状ファスナーと、

この第 2 の雌型面状ファスナーの少なくとも周縁部を押さえてビスにより前記第 2 の家具部材に前記第 2 の雌型面状ファスナーを取り付ける第 2 の枠体と、

前記第 2' の雌型面状ファスナーの少なくとも周縁部を押さえてビスにより前記第 2 の家具部材に前記第 2' の雌型面状ファスナーを取り付ける第 2' の枠体と、

前記第 2 の枠体と前記第 1 の枠体とは、並設する位置関係にあり、

前記第 2' の枠体と前記第 1' の枠体とは、並設する位置関係にあり、

前記第 1 の枠体の開口部より突出する前記第 1 の雌型面状ファスナーの部位と前記第 2 の枠体の開口部より突出する前記第 2 の雌型面状ファスナーの部位とに亘って係合する第 1 の雄型面状ファスナーと、

前記第 1 ' の枠体の開口部より突出する前記第 1 ' の雌型面状ファスナーの部位と前記第 2 ' の枠体の開口部より突出する前記第 2 ' の雌型面状ファスナーの部位とに亘って係合する第 1 ' の雄型面状ファスナーとを備え、

前記第 1 の枠体及び前記第 2 の枠体の素材は、前記第 1 の雌型面状ファスナーの素材より硬く、

前記第 1 の枠体及び前記第 2 の枠体の素材は、前記第 2 の雌型面状ファスナーの素材より硬く、

前記第 1 ' の枠体及び前記第 2 ' の枠体の素材は、前記第 1 ' の雌型面状ファスナーの素材より硬く、

前記第 1 ' の枠体及び前記第 2 ' の枠体の素材は、前記第 2 ' の雌型面状ファスナーの素材より硬い

ことを特徴とする家具。

【請求項 6】

第 1 の雌型面状ファスナーは、基布に対して立設するループ状部材を有し、このループ状部材は、前記基布において、直線状に配列された一群のループ状部材が間隔を置いて複数形成されたものであり、

第 1 の枠体は、平面視、長方形形状の開口部が複数並設するものであり、

前記第 1 の枠体の前記開口部より前記第 1 の雌型面状ファスナーの一群のループ状部材が突出すると共に、前記第 1 の枠体の前記開口部の縁部で前記第 1 の雌型面状ファスナーの基布を支持し、

第 2 の雌型面状ファスナーは、基布に対して立設するループ状部材を有し、このループ状部材は、前記基布において、直線状に配列された一群のループ状部材が間隔を置いて複数形成されたものであり、

第 2 の枠体は、平面視、長方形形状の開口部が複数並設するものであり、

前記第 2 の枠体の前記開口部より前記第 2 の雌型面状ファスナーの一群のループ状部材が突出すると共に、前記第 2 の枠体の前記開口部の縁部で前記第 2 の雌型面状ファスナーの基布を支持する

ことを特徴とする請求項 4 又は請求項 5 記載の家具。

【請求項 7】

基布に対して立設するフック状部材を有し、このフック状部材は、前記基布において、直線状に配列された一群のフック状部材が間隔を置いて複数形成された第 1 の雄型面状ファスナーと、

平面視、長方形形状の開口部が複数並設した第 1 の枠体と、

前記第 1 の枠体の前記開口部より前記第 1 の雄型面状ファスナーの一群のフック状部材が突出するものであり、

基布に対して立設するフック状部材を有し、このフック状部材は、前記基布において、直線状に配列された一群のフック状部材が間隔を置いて複数形成された第 2 の雄型面状ファスナーと、

平面視、長方形形状の開口部が複数並設した第 2 の枠体と、

前記第 1 の枠体の前記開口部より突出する前記第 1 の雄型面状ファスナーの一群のフック状部材と前記第 2 の枠体の前記開口部より突出する前記第 2 の雄型面状ファスナーの一群のフック状部材とに係合する雌型面状ファスナーと、

前記第 1 の枠体を第 1 の家具部材に取り付ける第 1 の枠体用ビスと、

前記第 2 の枠体を第 2 の家具部材に取り付ける第 2 の枠体用ビスとを備え、

前記第 1 の枠体及び前記第 2 の枠体の素材は、前記第 1 の雄型面状ファスナーの素材より硬く、且つ、前記第 1 の枠体及び前記第 2 の枠体の素材は、前記第 2 の雄型面状ファスナーの素材より硬い

10

20

30

40

50

ことを特徴とする家具移動防止部材。

【請求項 8】

基布に対して立設するループ状部材を有し、このループ状部材は、前記基布において、直線状に配列された一群のループ状部材が間隔を置いて複数形成された第 1 の雌型面状ファスナーと、

平面視、長方形形状の開口部が複数並設した第 1 の枠体と、

前記第 1 の枠体の前記開口部より前記第 1 の雌型面状ファスナーの一群のループ状部材が突出するものであり、

基布に対して立設するループ状部材を有し、このループ状部材は、前記基布において、直線状に配列された一群のループ状部材が間隔を置いて複数形成された第 2 の雌型面状ファスナーと、

平面視、長方形形状の開口部が複数並設した第 2 の枠体と、

前記第 1 の枠体の前記開口部より突出する前記第 1 の雌型面状ファスナーの一群のループ状部材と前記第 2 の枠体の前記開口部より突出する前記第 2 の雌型面状ファスナーの一群のループ状部材とに係合する雄型面状ファスナーと、

前記第 1 の枠体を第 1 の家具部材に取り付ける第 1 の枠体用ビスと、

前記第 2 の枠体を第 2 の家具部材に取り付ける第 2 の枠体用ビスとを備え、

前記第 1 の枠体及び前記第 2 の枠体の素材は、前記第 1 の雌型面状ファスナーの素材より硬く、且つ、前記第 1 の枠体及び前記第 2 の枠体の素材は、前記第 2 の雌型面状ファスナーの素材より硬い

ことを特徴とする家具移動防止部材。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、家具及び家具移動防止部材に係り、特に、複数の家具部材で構成された家具の家具部材同士の相対的移動を防止することができる家具及び家具移動防止部材に関する。

【背景技術】

【0002】

地震時に、家具が転倒するのを防止する家具転倒防止当具がある（特許文献 1 参照）。

この家具転倒防止当具は、下段家具の上に上段家具を重ね、上段家具の背面に、家具転倒防止当具をネジで固定し、家具転倒防止当具を壁面に押し付けて構成するものである。

【0003】

しかしながら、上述の家具転倒防止当具にあっては、家具転倒防止当具を壁面に押し付けねばならず、壁面という設置部位に制約を受けるという問題点があった。

【特許文献 1】実開昭 6 1 - 7 2 2 4 5 号公報

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0004】

本考案は、前記した問題点を除去するようにした家具及び家具移動防止部材を提供することを目的としている。

【課題を解決するための手段】

【0005】

前記した目的を達成するための本考案の家具は、第 1 の家具部材と、この第 1 の家具部材の上に位置する第 2 の家具部材と、前記第 1 の家具部材に取り付けられる第 1 の雄型面状ファスナーと、この第 1 の雄型面状ファスナーの少なくとも周縁部を押さえてビスにより前記第 1 の家具部材に前記第 1 の雄型面状ファスナーを取り付ける第 1 の枠体と、前

10

20

30

40

50

記第 2 の家具部材に取り付けられる第 2 の雄型面状ファスナーと、この第 2 の雄型面状ファスナーの少なくとも周縁部を押さえてビスにより前記第 2 の家具部材に前記第 2 の雄型面状ファスナーを取り付ける第 2 の枠体と、この第 2 の枠体と前記第 1 の枠体とは、並設する位置関係にあり、前記第 1 の枠体の開口部より突出する前記第 1 の雄型面状ファスナーの部位と前記第 2 の枠体の開口部より突出する前記第 2 の雄型面状ファスナーの部位とに亘って係合する雌型面状ファスナーとを備え、前記第 1 の枠体及び前記第 2 の枠体の素材は、前記第 1 の雄型面状ファスナーの素材より硬く、且つ、前記第 1 の枠体及び前記第 2 の枠体の素材は、前記第 2 の雄型面状ファスナーの素材より硬いものである。

【 0 0 0 6 】

また、請求項 2 記載の家具は、第 1 の家具部材と、この第 1 の家具部材の上に位置する第 2 の家具部材と、前記第 1 の家具部材に取り付けられる少なくとも第 1、第 1' の雄型面状ファスナーと、この第 1 の雄型面状ファスナーの少なくとも周縁部を押さえてビスにより前記第 1 の家具部材に前記第 1 の雄型面状ファスナーを取り付ける第 1 の枠体と、前記第 1' の雄型面状ファスナーの少なくとも周縁部を押さえてビスにより前記第 1 の家具部材に前記第 1' の雄型面状ファスナーを取り付ける第 1' の枠体と、前記第 2 の家具部材に取り付けられる少なくとも第 2、第 2' の雄型面状ファスナーと、この第 2 の雄型面状ファスナーの少なくとも周縁部を押さえてビスにより前記第 2 の家具部材に前記第 2 の雄型面状ファスナーを取り付ける第 2 の枠体と、前記第 2' の雄型面状ファスナーの少なくとも周縁部を押さえてビスにより前記第 2 の家具部材に前記第 2' の雄型面状ファスナーを取り付ける第 2' の枠体と、前記第 2 の枠体と前記第 1 の枠体とは、並設する位置関係にあり、前記第 2' の枠体と前記第 1' の枠体とは、並設する位置関係にあり、前記第 1 の枠体の開口部より突出する前記第 1 の雄型面状ファスナーの部位と前記第 2 の枠体の開口部より突出する前記第 2 の雄型面状ファスナーの部位とに亘って係合する第 1 の雌型面状ファスナーと、前記第 1' の枠体の開口部より突出する前記第 1' の雄型面状ファスナーの部位と前記第 2' の枠体の開口部より突出する前記第 2' の雄型面状ファスナーの部位とに亘って係合する第 1' の雌型面状ファスナーとを備え、前記第 1 の枠体及び前記第 2 の枠体の素材は、前記第 1 の雄型面状ファスナーの素材より硬く、前記第 1 の枠体及び前記第 2 の枠体の素材は、前記第 2 の雄型面状ファスナーの素材より硬く、前記第 1' の枠体及び前記第 2' の枠体の素材は、前記第 1' の雄型面状ファスナーの素材より硬く、前記第 1' の枠体及び前記第 2' の枠体の素材は、前記第 2' の雄型面状ファスナーの素材より硬いものである。

【 0 0 0 7 】

また、請求項 3 記載の家具は、請求項 1 又は請求項 2 記載の家具において、第 1 の雄型面状ファスナーは、基布に対して立設するフック状部材を有し、このフック状部材は、前記基布において、直線状に配列された一群のフック状部材が間隔を置いて複数形成されたものであり、第 1 の枠体は、平面視、長方形形状の開口部が複数並設するものであり、前記第 1 の枠体の前記開口部より前記第 1 の雄型面状ファスナーの一群のフック状部材が突出すると共に、前記第 1 の枠体の前記開口部の縁部で前記第 1 の雄型面状ファスナーの基布を支持し、第 2 の雄型面状ファスナーは、基布に対して立設するフック状部材を有し、このフック状部材は、前記基布において、直線状に配列された一群のフック状部材が間隔を置いて複数形成されたものであり、第 2 の枠体は、平面視、長方形形状の開口部が複数並設するものであり、前記第 2 の枠体の前記開口部より前記第 2 の雄型面状ファスナーの一群のフック状部材が突出すると共に、前記第 2 の枠体の前記開口部の縁部で前記第 2 の雄型面状ファスナーの基布を支持するものである。

【 0 0 0 8 】

また、請求項 4 記載の家具は、第 1 の家具部材と、この第 1 の家具部材の上に位置する第 2 の家具部材と、前記第 1 の家具部材に取り付けられる第 1 の雌型面状ファスナーと、この第 1 の雌型面状ファスナーの少なくとも周縁部を押さえてビスにより前記第 1 の家具部材に前記第 1 の雌型面状ファスナーを取り付ける第 1 の枠体と、前記第 2 の家具部材に取り付けられる第 2 の雌型面状ファスナーと、この第 2 の雌型面状ファスナーの少なく

とも周縁部を押さえてビスにより前記第2の家具部材に前記第2の雌型面状ファスナーを取り付ける第2の枠体と、この第2の枠体と前記第1の枠体とは、並設する位置関係にあり、前記第1の枠体の開口部より突出する前記第1の雌型面状ファスナーの部位と前記第2の枠体の開口部より突出する前記第2の雌型面状ファスナーの部位とに亘って係合する雄型面状ファスナーとを備え、前記第1の枠体及び前記第2の枠体の素材は、前記第1の雌型面状ファスナーの素材より硬く、且つ、前記第1の枠体及び前記第2の枠体の素材は、前記第2の雌型面状ファスナーの素材より硬いものである。

【0009】

また、請求項5記載の家具は、第1の家具部材と、この第1の家具部材の上に位置する第2の家具部材と、前記第1の家具部材に取り付けられる少なくとも第1、第1'の雌型面状ファスナーと、この第1の雌型面状ファスナーの少なくとも周縁部を押さえてビスにより前記第1の家具部材に前記第1の雌型面状ファスナーを取り付ける第1の枠体と、前記第1'の雌型面状ファスナーの少なくとも周縁部を押さえてビスにより前記第1の家具部材に前記第1'の雌型面状ファスナーを取り付ける第1'の枠体と、前記第2の家具部材に取り付けられる少なくとも第2、第2'の雌型面状ファスナーと、この第2の雌型面状ファスナーの少なくとも周縁部を押さえてビスにより前記第2の家具部材に前記第2の雌型面状ファスナーを取り付ける第2の枠体と、前記第2'の雌型面状ファスナーの少なくとも周縁部を押さえてビスにより前記第2の家具部材に前記第2'の雌型面状ファスナーを取り付ける第2'の枠体と、前記第2の枠体と前記第1の枠体とは、並設する位置関係にあり、前記第2'の枠体と前記第1'の枠体とは、並設する位置関係にあり、前記第1の枠体の開口部より突出する前記第1の雌型面状ファスナーの部位と前記第2の枠体の開口部より突出する前記第2の雌型面状ファスナーの部位とに亘って係合する第1の雄型面状ファスナーと、前記第1'の枠体の開口部より突出する前記第1'の雌型面状ファスナーの部位と前記第2'の枠体の開口部より突出する前記第2'の雌型面状ファスナーの部位とに亘って係合する第1'の雄型面状ファスナーとを備え、前記第1の枠体及び前記第2の枠体の素材は、前記第1の雌型面状ファスナーの素材より硬く、前記第1の枠体及び前記第2の枠体の素材は、前記第2の雌型面状ファスナーの素材より硬く、前記第1'の枠体及び前記第2'の枠体の素材は、前記第1'の雌型面状ファスナーの素材より硬く、前記第1'の枠体及び前記第2'の枠体の素材は、前記第2'の雌型面状ファスナーの素材より硬いものである。

【0010】

また、請求項6記載の家具は、請求項4又は請求項5記載の家具において、第1の雌型面状ファスナーは、基布に対して立設するループ状部材を有し、このループ状部材は、前記基布において、直線状に配列された一群のループ状部材が間隔を置いて複数形成されたものであり、第1の枠体は、平面視、長方形形状の開口部が複数並設するものであり、前記第1の枠体の前記開口部より前記第1の雌型面状ファスナーの一群のループ状部材が突出すると共に、前記第1の枠体の前記開口部の縁部で前記第1の雌型面状ファスナーの基布を支持し、第2の雌型面状ファスナーは、基布に対して立設するループ状部材を有し、このループ状部材は、前記基布において、直線状に配列された一群のループ状部材が間隔を置いて複数形成されたものであり、第2の枠体は、平面視、長方形形状の開口部が複数並設するものであり、前記第2の枠体の前記開口部より前記第2の雌型面状ファスナーの一群のループ状部材が突出すると共に、前記第2の枠体の前記開口部の縁部で前記第2の雌型面状ファスナーの基布を支持するものである。

【0011】

また、請求項7記載の家具移動防止部材は、基布に対して立設するフック状部材を有し、このフック状部材は、前記基布において、直線状に配列された一群のフック状部材が間隔を置いて複数形成された第1の雄型面状ファスナーと、平面視、長方形形状の開口部が複数並設した第1の枠体と、前記第1の枠体の前記開口部より前記第1の雄型面状ファスナーの一群のフック状部材が突出するものであり、基布に対して立設するフック状部材を有し、このフック状部材は、前記基布において、直線状に配列された一群のフック状部

材が間隔を置いて複数形成された第２の雄型面状ファスナーと、平面視、長方形形状の開口部が複数並設した第２の枠体と、前記第１の枠体の前記開口部より突出する前記第１の雄型面状ファスナーの一群のフック状部材と前記第２の枠体の前記開口部より突出する前記第２の雄型面状ファスナーの一群のフック状部材とに係合する雌型面状ファスナーと、前記第１の枠体を第１の家具部材に取り付ける第１の枠体用ビスと、前記第２の枠体を第２の家具部材に取り付ける第２の枠体用ビスとを備え、前記第１の枠体及び前記第２の枠体の素材は、前記第１の雄型面状ファスナーの素材より硬く、且つ、前記第１の枠体及び前記第２の枠体の素材は、前記第２の雄型面状ファスナーの素材より硬いものである。

【００１２】

また、請求項８記載の家具移動防止部材は、基布に対して立設するループ状部材を有し、このループ状部材は、前記基布において、直線状に配列された一群のループ状部材が間隔を置いて複数形成された第１の雌型面状ファスナーと、平面視、長方形形状の開口部が複数並設した第１の枠体と、前記第１の枠体の前記開口部より前記第１の雌型面状ファスナーの一群のループ状部材が突出するものであり、基布に対して立設するループ状部材を有し、このループ状部材は、前記基布において、直線状に配列された一群のループ状部材が間隔を置いて複数形成された第２の雌型面状ファスナーと、平面視、長方形形状の開口部が複数並設した第２の枠体と、前記第１の枠体の前記開口部より突出する前記第１の雌型面状ファスナーの一群のループ状部材と前記第２の枠体の前記開口部より突出する前記第２の雌型面状ファスナーの一群のループ状部材とに係合する雄型面状ファスナーと、前記第１の枠体を第１の家具部材に取り付ける第１の枠体用ビスと、前記第２の枠体を第２の家具部材に取り付ける第２の枠体用ビスとを備え、前記第１の枠体及び前記第２の枠体の素材は、前記第１の雌型面状ファスナーの素材より硬く、且つ、前記第１の枠体及び前記第２の枠体の素材は、前記第２の雌型面状ファスナーの素材より硬いものである。

【考案の効果】

【００１３】

請求項１記載の家具によれば、地震等により第２の家具部材が移動しようとしても、第１の家具部材に取り付けられた第１の雄型面状ファスナーと第２の家具部材に取り付けられた第２の雄型面状ファスナーとに亘って係合する雌型面状ファスナーにより、第２の家具部材の移動が防止され、第２の家具部材が第１の家具部材から落下するのを防ぐことができ、しかも、第１の枠体及び第２の枠体の素材は、第１の雄型面状ファスナーの素材より硬く、且つ、第１の枠体及び第２の枠体の素材は、第２の雄型面状ファスナーの素材より硬いため、ビスを介して第１の枠体によって第１の雄型面状ファスナーを、ビスを介して第２の枠体によって第２の雄型面状ファスナーを、それぞれ押さえることができ、第１の雄型面状ファスナーが第１の家具部材から、第２の雄型面状ファスナーが第２の家具部材からそれぞれ離脱するのを防いで、雌型面状ファスナーと第１の雄型面状ファスナー及び第２の雄型面状ファスナーとの係合状態を保持することができる。

【００１４】

また、請求項２記載の家具によれば、地震等により第２の家具部材が移動しようとしても、第１の家具部材に取り付けられた第１の雄型面状ファスナーと第２の家具部材に取り付けられた第２の雄型面状ファスナーとに亘って係合する第１の雌型面状ファスナー、第１の家具部材に取り付けられた第１'の雄型面状ファスナーと第２の家具部材に取り付けられた第２'の雄型面状ファスナーとに亘って係合する第１'の雌型面状ファスナーにより、第２の家具部材の移動が防止され、第２の家具部材が第１の家具部材から落下するのを防ぐことができ、しかも、第１の枠体及び第２の枠体の素材は、第１の雄型面状ファスナーの素材より硬く、第１の枠体及び第２の枠体の素材は、第２の雄型面状ファスナーの素材より硬く、第１'の枠体及び第２'の枠体の素材は、第１'の雄型面状ファスナーの素材より硬く、第１'の枠体及び第２'の枠体の素材は、第２'の雄型面状ファスナーの素材より硬いため、ビスを介して第１の枠体によって第１の雄型面状ファスナーを、ビスを介して第２の枠体によって第２の雄型面状ファスナーを、ビスを介して第１'の枠体によって第１'の雄型面状ファスナーを、ビスを介して第２'の枠体によって第２'の雄

型面状ファスナーを、それぞれ押さえることができ、第1の雄型面状ファスナー及び第1'の雄型面状ファスナーが第1の家具部材から、第2の雄型面状ファスナー及び第2'の雄型面状ファスナーが第2の家具部材からそれぞれ離脱するのを防いで、第1の雌型面状ファスナーと第1の雄型面状ファスナー及び第2の雄型面状ファスナーとの係合状態を、第1'の雌型面状ファスナーと第1'の雄型面状ファスナー及び第2'の雄型面状ファスナーとの係合状態をそれぞれ保持することができる。

【0015】

また、請求項3記載の家具によれば、第1の雄型面状ファスナーの基布が第1の枠体の開口部の縁部で、第2の雄型面状ファスナーの基布が第2の枠体の開口部の縁部で、それぞれ支持されるため、支持が強固になる分、第1の雄型面状ファスナーが第1の家具部材から、第2の雄型面状ファスナーが第2の家具部材からそれぞれ離脱するのをより防いで、雌型面状ファスナーと第1の雄型面状ファスナー及び第2の雄型面状ファスナーとの係合状態をより保持することができる。

10

【0016】

また、請求項4記載の家具によれば、地震等により第2の家具部材が移動しようとしても、第1の家具部材に取り付けられた第1の雌型面状ファスナーと第2の家具部材に取り付けられた第2の雌型面状ファスナーとに亘って係合する雄型面状ファスナーにより、第2の家具部材の移動が防止され、第2の家具部材が第1の家具部材から落下するのを防ぐことができ、しかも、第1の枠体及び第2の枠体の素材は、第1の雌型面状ファスナーの素材より硬く、且つ、第1の枠体及び第2の枠体の素材は、第2の雌型面状ファスナーの素材より硬いため、ビスを介して第1の枠体によって第1の雌型面状ファスナーを、ビスを介して第2の枠体によって第2の雌型面状ファスナーを、それぞれ押さえることができ、第1の雌型面状ファスナーが第1の家具部材から、第2の雌型面状ファスナーが第2の家具部材からそれぞれ離脱するのを防いで、雄型面状ファスナーと第1の雌型面状ファスナー及び第2の雌型面状ファスナーとの係合状態を保持することができる。

20

【0017】

また、請求項5記載の家具によれば、地震等により第2の家具部材が移動しようとしても、第1の家具部材に取り付けられた第1の雌型面状ファスナーと第2の家具部材に取り付けられた第2の雌型面状ファスナーとに亘って係合する第1の雄型面状ファスナー、第1の家具部材に取り付けられた第1'の雌型面状ファスナーと第2の家具部材に取り付けられた第2'の雌型面状ファスナーとに亘って係合する第1'の雄型面状ファスナーにより、第2の家具部材の移動が防止され、第2の家具部材が第1の家具部材から落下するのを防ぐことができ、しかも、第1の枠体及び第2の枠体の素材は、第1の雌型面状ファスナーの素材より硬く、第1の枠体及び第2の枠体の素材は、第2の雌型面状ファスナーの素材より硬く、第1'の枠体及び第2'の枠体の素材は、第1'の雌型面状ファスナーの素材より硬く、第1'の枠体及び第2'の枠体の素材は、第2'の雌型面状ファスナーの素材より硬いため、ビスを介して第1の枠体によって第1の雌型面状ファスナーを、ビスを介して第2の枠体によって第2の雌型面状ファスナーを、ビスを介して第1'の枠体によって第1'の雌型面状ファスナーを、ビスを介して第2'の枠体によって第2'の雌型面状ファスナーを、それぞれ押さえることができ、第1の雌型面状ファスナー及び第1'の雌型面状ファスナーが第1の家具部材から、第2の雌型面状ファスナー及び第2'の雌型面状ファスナーが第2の家具部材からそれぞれ離脱するのを防いで、第1の雄型面状ファスナーと第1の雌型面状ファスナー及び第2の雌型面状ファスナーとの係合状態を、第1'の雄型面状ファスナーと第1'の雌型面状ファスナー及び第2'の雌型面状ファスナーとの係合状態をそれぞれ保持することができる。

30

40

【0018】

また、請求項7記載の家具移動防止部材によれば、例えば、第1の雄型面状ファスナーを第1の枠体で押さえてビスにより第1の枠体を第1の家具部材に、第2の雄型面状ファスナーを第2の枠体で押さえてビスにより第2の枠体を第1の家具部材の上に位置する第2の家具部材に、それぞれ取り付け、前記第1の雄型面状ファスナーと前記第2の雄型

50

面状ファスナーとに亘って雌型面状ファスナーが係合するようにすれば、第2の家具部材の移動が防止され、第2の家具部材が第1の家具部材から落下するのを防ぐことができ、しかも、第1の枠体及び第2の枠体の素材は、第1の雄型面状ファスナーの素材より硬く、且つ、第1の枠体及び第2の枠体の素材は、第2の雄型面状ファスナーの素材より硬いため、ビスを介して第1の枠体によって第1の雄型面状ファスナーを、ビスを介して第2の枠体によって第2の雄型面状ファスナーを、それぞれ押さえることができ、第1の雄型面状ファスナーが第1の家具部材から、第2の雄型面状ファスナーが第2の家具部材からそれぞれ離脱するのを防いで、雌型面状ファスナーと第1の雄型面状ファスナー及び第2の雄型面状ファスナーとの係合状態を保持することができる。

【0019】

10

また、請求項8記載の家具移動防止部材によれば、例えば、第1の雌型面状ファスナーを第1の枠体で押さえてビスにより第1の枠体を第1の家具部材に、第2の雌型面状ファスナーを第2の枠体で押さえてビスにより第2の枠体を第1の家具部材の上に位置する第2の家具部材に、それぞれ取り付け、前記第1の雌型面状ファスナーと前記第2の雌型面状ファスナーとに亘って雄型面状ファスナーが係合するようにすれば、第2の家具部材の移動が防止され、第2の家具部材が第1の家具部材から落下するのを防ぐことができ、しかも、第1の枠体及び第2の枠体の素材は、第1の雌型面状ファスナーの素材より硬く、且つ、第1の枠体及び第2の枠体の素材は、第2の雌型面状ファスナーの素材より硬いため、ビスを介して第1の枠体によって第1の雌型面状ファスナーを、ビスを介して第2の枠体によって第2の雌型面状ファスナーを、それぞれ押さえることができ、第1の雌型面状ファスナーが第1の家具部材から、第2の雌型面状ファスナーが第2の家具部材からそれぞれ離脱するのを防いで、雄型面状ファスナーと第1の雌型面状ファスナー及び第2の雌型面状ファスナーとの係合状態を保持することができる。

20

【考案を実施するための最良の形態】

【0020】

本考案の一実施例である家具及び家具移動防止部材を図面を参照して説明する。

(実施例1)

図1～図6において、Bは家具、例えば、仏壇である。家具Bは、第1の家具部材B1と、この第1の家具部材B1の上に位置する第2の家具部材B2とで、概略的に構成されている。

30

1は第1の雄型面状ファスナーで、2は第1の雄型面状ファスナー1の少なくとも周縁部を押さえてビス3により第1の家具部材B1に第1の雄型面状ファスナー1を取り付ける第1の枠体で、4は両面テープであり、図2(b)に示す4'は、剥離紙である。なお、場合により両面テープ4は省略することもできる。

【0021】

また、5は第2の雄型面状ファスナーで、6は第2の雄型面状ファスナー5の少なくとも周縁部を押さえてビス7により第2の家具部材B2に第2の雄型面状ファスナー5を取り付ける第2の枠体で、8は両面テープである。

そして、図3に示すように、第2の枠体6と第1の枠体2とは、並設する位置関係にあって、第1の枠体2の開口部2aより突出する第1の雄型面状ファスナー1の部位と第2の枠体6の開口部6aより突出する第2の雄型面状ファスナー4の部位とに亘って雌型面状ファスナー10が係合するようになっている。

40

なお、第1の枠体2及び第2の枠体5の素材は、第1の雄型面状ファスナー1の素材より硬く、且つ、第1の枠体2及び第2の枠体5の素材は、第2の雄型面状ファスナー4の素材より硬い、例えば、金属製部材、プラスチック部材である。

【0022】

従って、上述した家具Bによれば、地震等により第2の家具部材B2が移動しようとしても、第1の家具部材B1に取り付けられた第1の雄型面状ファスナー1の部位と第2の家具部材B2に取り付けられた第2の雄型面状ファスナーの部位5とに亘って係合する雌型面状ファスナー10により、第2の家具部材B2の移動が防止され、第2の家具部材

50

B 2 が第 1 の家具部材 B 1 から落下するのを防ぐことができ、しかも、第 1 の枠体 2 及び第 2 の枠体 6 の素材は、第 1 の雄型面状ファスナー 1 の素材より硬く、且つ、第 1 の枠体 2 及び第 2 の枠体 6 の素材は、第 2 の雄型面状ファスナー 5 の素材より硬いため、ビス 3 を介して第 1 の枠体 2 によって第 1 の雄型面状ファスナー 1 を、ビス 7 を介して第 2 の枠体 6 によって第 2 の雄型面状ファスナー 5 を、それぞれ押さえることができ、第 1 の雄型面状ファスナー 1 が第 1 の家具部材 B 1 から、第 2 の雄型面状ファスナー 5 が第 2 の家具部材 B 2 からそれぞれ離脱するのを防いで、雌型面状ファスナー 10 と第 1 の雄型面状ファスナー 1 及び第 2 の雄型面状ファスナー 5 との係合状態を保持することができる。

【0023】

(実施例 2)

10

上述した実施例 1 においては、第 1 の家具部材 B 1、第 2 の家具部材 B 2 の側にそれぞれ第 1 の雄型面状ファスナー 1、第 2 の雄型面状ファスナー 5 を設けたが、第 1 の家具部材 B 1、第 2 の家具部材 B 2 の側にそれぞれ図示しない第 1 の雌型面状ファスナー、第 2 の雌型面状ファスナーを設けるようにしても良い。

即ち、実施例 2 においては、上述した実施例 1 の図 1 乃至図 6 の「第 1 の雄型面状ファスナー 1、第 2 の雄型面状ファスナー 5 と雌型面状ファスナー 10 との係合関係」が逆になる以外は同じであるため、図を省略すると共に、実施例 1 と同一部分については、同一符号を用いる。

【0024】

実施例 2 の家具 B は、第 1 の家具部材 B 1 と、この第 1 の家具部材 B 1 の上に位置する第 2 の家具部材 B 2 と、第 1 の雌型面状ファスナー（図示せず）と、この第 1 の雌型面状ファスナー（図示せず）の少なくとも周縁部を押さえてビス 3 により第 1 の家具部材 B 1 に第 1 の雌型面状ファスナー（図示せず）を取り付ける第 1 の枠体 2 と、第 2 の雌型面状ファスナー（図示せず）と、この第 2 の雌型面状ファスナー（図示せず）の少なくとも周縁部を押さえてビス 7 により第 2 の家具部材 B 2 に第 2 の雌型面状ファスナー（図示せず）を取り付ける第 2 の枠体 6 と、この第 2 の枠体 6 と第 1 の枠体 2 とは、並設する位置関係にあり、第 1 の枠体 2 の開口部 2 a より突出する第 1 の雌型面状ファスナー（図示せず）の部位と第 2 の枠体 6 の開口部 6 a より突出する第 2 の雌型面状ファスナー（図示せず）の部位とに亘って係合する雄型面状ファスナー（図示せず）とを備え、第 1 の枠体 2 及び第 2 の枠体 6 の素材は、第 1 の雌型面状ファスナー（図示せず）の素材より硬く、且つ、第 1 の枠体 2 及び第 2 の枠体 6 の素材は、第 2 の雌型面状ファスナー（図示せず）の素材より硬いものとなっている。

20

30

【0025】

この実施例の家具 B においても、実施例 1 と同様、地震等により第 2 の家具部材 B 2 が移動しようとしても、第 1 の家具部材 B 1 に取り付けられた第 1 の雌型面状ファスナー（図示せず）と第 2 の家具部材 B 2 に取り付けられた第 2 の雌型面状ファスナー（図示せず）とに亘って係合する雄型面状ファスナー（図示せず）により、第 2 の家具部材 B 2 の移動が防止され、第 2 の家具部材 B 2 が第 1 の家具部材 B 1 から落下するのを防ぐことができ、しかも、第 1 の枠体 2 及び第 2 の枠体 6 の素材は、第 1 の雌型面状ファスナー（図示せず）の素材より硬く、且つ、第 1 の枠体 2 及び第 2 の枠体 6 の素材は、第 2 の雌型面状ファスナー（図示せず）の素材より硬いため、ビス 3 を介して第 1 の枠体 2 によって第 1 の雌型面状ファスナー（図示せず）を、ビス 7 を介して第 2 の枠体 6 によって第 2 の雌型面状ファスナー（図示せず）を、それぞれ押さえることができ、第 1 の雌型面状ファスナー（図示せず）が第 1 の家具部材 B 1 から、第 2 の雌型面状ファスナー（図示せず）が第 2 の家具部材 B 2 からそれぞれ離脱するのを防いで、雄型面状ファスナー（図示せず）と第 1 の雌型面状ファスナー（図示せず）及び第 2 の雌型面状ファスナー（図示せず）との係合状態を保持することができる。

40

【0026】

(実施例 3)

50

上述した実施例 1 においては、第 1 の家具部材 B 1、第 2 の家具部材 B 2 の側にそれぞれ第 1 の雄型面状ファスナー 1、第 2 の雄型面状ファスナー 5 を設け、第 1 の家具部材 B 1 に取り付けられた第 1 の枠体 2 の開口部 2 a より突出する第 1 の雄型面状ファスナー 1 の部位と第 2 の家具部材 B 2 に取り付けられた第 2 の枠体 6 の開口部 6 a より突出する第 2 の雄型面状ファスナー 5 の部位とに亘って係合する雌型面状ファスナー 10 とを備えた一組としたが、該係合部位は、多ければ多いほど雌型面状ファスナー 10 と第 1 の雄型面状ファスナー 1 及び第 2 の雄型面状ファスナー 5 との係合状態を保持することができるが、

本願考案にあつては、第 1 の家具部材 B 1 に取り付けられる雄型面状ファスナーは、少なくとも、第 1、第 1' の雄型面状ファスナー 1、1'、第 2 の家具部材 B 2 に取り付けられる雄型面状ファスナーは、少なくとも、第 2、第 2' の雄型面状ファスナー 5、5'、隣接する第 1 の雄型面状ファスナー 1 と第 2 の雄型面状ファスナー 5 に係合する第 1 の雌型面状ファスナー 10、隣接する第 1' の雄型面状ファスナー 1' と第 2' の雄型面状ファスナー 5' に係合する第 1' の雌型面状ファスナー 10' と雌型面状ファスナーは、少なくとも、2 個あれば良い。

なお、第 1' の雄型面状ファスナー 1' は第 1 の雄型面状ファスナー 1 と、第 2' の雄型面状ファスナー 5' は第 2 の雄型面状ファスナー 5 と、第 1' の雌型面状ファスナー 10' は、第 1 の雌型面状ファスナー 10 と、それぞれ同様であるので、図 6 に括弧を付している。

【0027】

(実施例 4)

上述した実施例 3 においては、第 1 の家具部材 B 1、第 2 の家具部材 B 2 の側にそれぞれ第 1、第 1' の雄型面状ファスナー 1、1'、第 2、第 2' の雄型面状ファスナー 5、5' を設けたが、第 1 の家具部材 B 1、第 2 の家具部材 B 2 の側にそれぞれ図示しない第 1、第 1' の雌型面状ファスナー、第 2、第 2' の雌型面状ファスナーを設けるようにしても良い。

即ち、実施例 4 においては、上述した実施例 3 の図 1 乃至図 6 の「第 1 の雄型面状ファスナー 1、第 2 の雄型面状ファスナー 5 と第 1 の雌型面状ファスナー 10 との係合関係、第 1' の雄型面状ファスナー 1'、第 2' の雄型面状ファスナー 5' と第 1' の雌型面状ファスナー 10' との係合関係」が逆になる以外は同じであるため、図を省略すると共に、実施例 3 と同一部分については、同一符号を用いる。

【0028】

(実施例 5)

次に、実施例 5 について、図 7 乃至図 12 を参照して、以下説明する。

上述の実施例と異なる点は、平面視、第 1 の枠体 2 及び第 2 の枠体 6 長方形形状の開口部が複数並設されている点である。

即ち、第 1 の家具部材 B 1 に取り付けられる第 1 の雄型面状ファスナー 1 は、基布に対して立設するフック状部材を有し、このフック状部材は、前記基布において、直線状に配列された一群のフック状部材が間隔を置いて複数形成されたものであり、第 1 の枠体 2、平面視、長方形形状の開口部 2 a が複数（本実施例では、4 個）並設している。

そして、第 1 の枠体 2 の開口部 2 a より第 1 の雄型面状ファスナー 1 の一群のフック状部材が突出すると共に、第 1 の枠体 2 の開口部 2 a の縁部で第 1 の雄型面状ファスナー 1 の基布を支持するようになっている。

また、第 2 の家具部材 B 2 に取り付けられる第 2 の雄型面状ファスナーは、基布に対して立設するフック状部材を有し、このフック状部材は、前記基布において、直線状に配列された一群のフック状部材が間隔を置いて複数形成されたものであり、第 2 の枠体 6 は、平面視、長方形形状の開口部 6 a が複数（本実施例では、4 個）並設している。

そして、第 2 の枠体 6 の開口部 6 a より第 2 の雄型面状ファスナー 5 の一群のフック状部材が突出すると共に、第 2 の枠体 6 の開口部 6 a の縁部 6 A で第 2 の雄型面状ファスナー 5 の基布を支持するものである（図 9 参照）

従って、この家具にあつては、第 1 の雄型面状ファスナー 1 の基布が第 1 の枠体 2 の

開口部 2 a の縁部 2 A で第 1 の雄型面状ファスナー 1 の基布を、第 2 の枠体 6 の開口部 6 a の縁部 6 A で第 2 の雄型面状ファスナー 5 の基布を、それぞれ支持するため、支持が強固になる分、第 1 の雄型面状ファスナー 1 が第 1 の家具部材 B 1 から、第 2 の雄型面状ファスナー 5 が第 2 の家具部材 B 2 からそれぞれ離脱するのをより防いで、雌型面状ファスナー 10 と第 1 の雄型面状ファスナー 1 及び第 2 の雄型面状ファスナー 5 との係合状態をより保持することができる。

【 0 0 2 9 】

(実施例 6)

上述した実施例 5 においては、第 1 の家具部材 B 1、第 2 の家具部材 B 2 の側にそれぞれ第 1 の雄型面状ファスナー 1、第 2 の雄型面状ファスナー 5 を設けたが、第 1 の家具部材 B 1、第 2 の家具部材 B 2 の側にそれぞれ図示しない第 1 の雌型面状ファスナー、第 2 の雌型面状ファスナーを設けるようにしても良い。

即ち、実施例 6 においては、上述した実施例 5 の図 7 乃至図 12 の「第 1 の雄型面状ファスナー 1、第 2 の雄型面状ファスナー 5 と雌型面状ファスナー 10 との係合関係」が逆になる以外は同じであるため、図を省略すると共に、実施例 5 と同一部分については、同一符号を用いる。

第 1 の雌型面状ファスナー（図示せず）は、基布に対して立設するループ状部材を有し、このループ状部材は、前記基布において、直線状に配列された一群のループ状部材が間隔を置いて複数形成されたものであり、第 1 の枠体 2 は、平面視、長方形形状の開口部 2 a が複数（本実施例では、4 個）並設している。

そして、第 1 の枠体 2 の開口部 2 a より前記第 1 の雌型面状ファスナー（図示せず）の一群のループ状部材が突出すると共に、第 1 の枠体 2 の開口部 2 a の縁部 2 A で第 1 の雌型面状ファスナー（図示せず）の基布を支持するようになっている。

また、第 2 の雌型面状ファスナー（図示せず）は、基布に対して立設するループ状部材を有し、このループ状部材は、前記基布において、直線状に配列された一群のループ状部材が間隔を置いて複数形成されたものであり、第 2 の枠体 6 は、平面視、長方形形状の開口部 6 a が複数（本実施例では、4 個）並設している。

そして、第 2 の枠体 6 の開口部 6 a より第 2 の雌型面状ファスナー（図示せず）の一群のループ状部材が突出すると共に、第 2 の枠体 6 の開口部 6 a の縁部 6 A で第 2 の雌型面状ファスナー（図示せず）の基布を支持するものである。

従って、この家具にあつては、第 1 の雌型面状ファスナー（図示せず）の基布が第 1 の枠体 2 の開口部 2 a の縁部 2 A で、第 2 の雌型面状ファスナー（図示せず）の基布が第 2 の枠体 6 の開口部 6 a の縁部 6 A で、それぞれ支持されるため、支持が強固になる分、第 1 の雌型面状ファスナー（図示せず）が第 1 の家具部材 B 1 から、第 2 の雌型面状ファスナー（図示せず）が第 2 の家具部材 B 2 からそれぞれ離脱するのをより防いで、雄型面状ファスナー（図示せず）と第 1 の雌型面状ファスナー（図示せず）及び第 2 の雌型面状ファスナー（図示せず）との係合状態をより保持することができる。

【 0 0 3 0 】

(実施例 7)

なお、図 7 に示す X は、家具移動防止部材で、家具移動防止部材 X は、基布に対して立設するフック状部材を有し、このフック状部材は、前記基布において、直線状に配列された一群のフック状部材が間隔を置いて複数形成された第 1 の雄型面状ファスナー 1 と、平面視、長方形形状の開口部 2 a が複数並設した第 1 の枠体 2 と、第 1 の枠体 2 の開口部 2 a より第 1 の雄型面状ファスナー 1 の一群のフック状部材が突出するものであり、基布に対して立設するフック状部材を有し、このフック状部材は、前記基布において、直線状に配列された一群のフック状部材が間隔を置いて複数形成された第 2 の雄型面状ファスナー 5 と、平面視、長方形形状の開口部 6 a が複数並設した第 2 の枠体 6 と、第 1 の枠体 2 の開口部 2 a より突出する第 1 の雄型面状ファスナー 1 の一群のフック状部材と第 2 の枠体 6 の開口部 6 a より突出する第 2 の雄型面状ファスナー 7 の一群のフック状部材とに係合する雌型面状ファスナー 10 と、第 1 の枠体 2 を第 1 の家具部材 B 1 に取り付ける第 1

の枠体用ビス 3 と、第 2 の枠体 6 を第 2 の家具部材 B 2 に取り付ける第 2 の枠体用ビス 7 とを備え、第 1 の枠体 2 及び第 2 の枠体 6 の素材は、第 1 の雄型面状ファスナー 1 の素材より硬く、且つ、第 1 の枠体 2 及び第 2 の枠体 6 の素材は、第 2 の雄型面状ファスナー 5 の素材より硬いものとなっている。

この家具移動防止部材 X によれば、上述したように、例えば、第 1 の雄型面状ファスナー 1 を第 1 の枠体 2 で押さえてビス 3 により第 1 の枠体 2 を第 1 の家具部材 B 1 に第 1 の雄型面状ファスナー 1 を、第 2 の雄型面状ファスナー 5 を第 2 の枠体 6 で押さえてビス 7 により第 2 の枠体 6 を第 1 の家具部材 B 1 の上に位置する第 2 の家具部材 B 2 に第 2 の雄型面状ファスナー 5 を、それぞれ取り付け、第 1 の雄型面状ファスナー 1 と第 2 の雄型面状ファスナー 5 とに亘って雌型面状ファスナー 10 が係合するようにすれば、第 2 の家具部材 B 2 の移動が防止され、第 2 の家具部材 B 2 が第 1 の家具部材 B 1 から落下するのを防ぐことができ、しかも、第 1 の枠体 2 及び第 2 の枠体 6 の素材は、第 1 の雄型面状ファスナー 1 の素材より硬く、且つ、第 1 の枠体 2 及び第 2 の枠体 6 の素材は、第 2 の雄型面状ファスナー 5 の素材より硬いため、ビス 3 を介して第 1 の枠体 2 によって第 1 の雄型面状ファスナー 1 を、ビス 7 を介して第 2 の枠体 6 によって第 2 の雄型面状ファスナー 5 を、それぞれ押さえることができ、第 1 の雄型面状ファスナー 1 が第 1 の家具部材 B 1 から、第 2 の雄型面状ファスナー 5 が第 2 の家具部材 B 2 からそれぞれ離脱するのを防いで、雌型面状ファスナー 10 と第 1 の雄型面状ファスナー 1 及び第 2 の雄型面状ファスナー 5 との係合状態を保持することができる。

【0031】

(実施例 8)

上述した実施例 7 においては、第 1 の家具部材 B 1、第 2 の家具部材 B 2 の側にそれぞれ第 1 の雄型面状ファスナー 1、第 2 の雄型面状ファスナー 5 を設けたが、第 1 の家具部材 B 1、第 2 の家具部材 B 2 の側にそれぞれ図示しない第 1 の雌型面状ファスナー、第 2 の雌型面状ファスナーを設けるようにしても良い。

即ち、実施例 8 においては、上述した実施例 7 の図 7 乃至図 12 の「第 1 の雄型面状ファスナー 1、第 2 の雄型面状ファスナー 5 と雌型面状ファスナー 10 との係合関係」が逆になる以外は同じであるため、図を省略すると共に、実施例 7 と同一部分については、同一符号を用いる。

家具移動防止部材 X は、基布に対して立設するループ状部材を有し、このループ状部材は、前記基布において、直線状に配列された一群のループ状部材が間隔を置いて複数形成された第 1 の雌型面状ファスナー（図示せず）と、平面視、長方形形状の開口部 2a が複数並設した第 1 の枠体 2 と、第 1 の枠体 2 の開口部 2a より第 1 の雌型面状ファスナー（図示せず）の一群のループ状部材が突出するものであり、基布に対して立設するループ状部材を有し、このループ状部材は、前記基布において、直線状に配列された一群のループ状部材が間隔を置いて複数形成された第 2 の雌型面状ファスナー（図示せず）と、平面視、長方形形状の開口部 6a が複数並設した第 2 の枠体 6 と、第 1 の枠体 2 の開口部 2a より突出する第 1 の雌型面状ファスナー（図示せず）の一群のループ状部材と第 2 の枠体 6 の開口部 6a より突出する第 2 の雌型面状ファスナー（図示せず）の一群のループ状部材とに係合する雄型面状ファスナー（図示せず）、第 1 の枠体 2 を第 1 の家具部材 B 1 に取り付ける第 1 の枠体用ビス 3 と、第 2 の枠体 6 を第 2 の家具部材 B 2 に取り付ける第 2 の枠体用ビス 7 とを備え、第 1 の枠体 2 及び第 2 の枠体 6 の素材は、第 1 の雌型面状ファスナー（図示せず）の素材より硬く、且つ、第 1 の枠体 2 及び第 2 の枠体 6 の素材は、第 2 の雌型面状ファスナー（図示せず）の素材より硬いものとなっている。

この家具移動防止部材 X によれば、上述したように、例えば、第 1 の雌型面状ファスナー（図示せず）を第 1 の枠体 2 で押さえてビス 3 により第 1 の枠体 2 を第 1 の家具部材 B 1 に第 1 の雄型面状ファスナー 1 を、第 2 の雄型面状ファスナー 5 を第 2 の枠体 6 で押さえてビス 7 により第 2 の枠体 6 を第 1 の家具部材 B 1 の上に位置する第 2 の家具部材 B 2 に第 2 の雌型面状ファスナー（図示せず）を、それぞれ取り付け、第 1 の雌型面状ファスナー（図示せず）と第 2 の雌型面状ファスナー（図示せず）とに亘って雄型面状ファス

ナー（図示せず）が係合するようにすれば、第２の家具部材Ｂ２の移動が防止され、第２の家具部材Ｂ２が第１の家具部材Ｂ１から落下するのを防ぐことができ、しかも、第１の枠体２及び第２の枠体６の素材は、第１の雌型面状ファスナー（図示せず）の素材より硬く、且つ、第１の枠体２及び第２の枠体６の素材は、第２の雌型面状ファスナー（図示せず）の素材より硬いため、ビス３を介して第１の枠体２によって第１の雌型面状ファスナー（図示せず）を、ビス７を介して第２の枠体６によって第２の雌型面状ファスナー（図示せず）を、それぞれ押さえることができ、第１の雌型面状ファスナー（図示せず）が第１の家具部材Ｂ１から、第２の雌型面状ファスナー（図示せず）が第２の家具部材Ｂ２からそれぞれ離脱するのを防いで、雄型面状ファスナー（図示せず）と第１の雌型面状ファスナー（図示せず）及び第２の雌型面状ファスナー（図示せず）との係合状態を保持することができる。

10

【図面の簡単な説明】

【００３２】

【図１】図１は、本考案の一実施例の家具を背面側から見た概略的斜視図である。

【図２】図２（ａ）は、図１の２－２線による概略的断面図であり、図２（ｂ）は、図２（ａ）の粘着部（両面テープ）を説明するための概略的断面図である。

【図３】図３は、図１の一部の概略的拡大正面図である。

【図４】図４は、図３の４－４線による概略的断面図である。

【図５】図５は、図４のＡの概略的拡大断面図である。

【図６】図６は、図３の一部を分解して示す概略的一部分解斜視図である。

20

【図７】図７は、図６と異なる他の実施例の概略的一部分解斜視図である。

【図８】図８は、図７の８－８線による概略的断面図である。

【図９】図９は、図８のＣの概略的拡大断面図である。

【図１０】図１０は、図７の第１の雄型面状ファスナー（第２の雄型面状ファスナー）の概略的断面図である。

【図１１】図１１は、図７の第１の枠体（第２の枠体）の概略的正面図である。

【図１２】図１２は、図７の第１の雄型面状ファスナー（第２の雄型面状ファスナー）の上に第１の枠体（第２の枠体）が位置した状態の概略的正面図である。

【符号の説明】

【００３３】

30

Ｂ … 家具

Ｂ１ … 第１の家具部材

Ｂ２ … 第２の家具部材

１ … 第１の雄型面状ファスナー

２ … 第１の枠体

３ … ビス

５ … 第２の雄型面状ファスナー

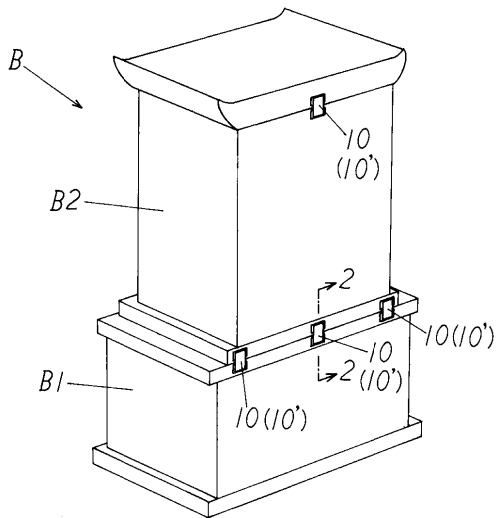
６ … 第２の枠体

７ … ビス

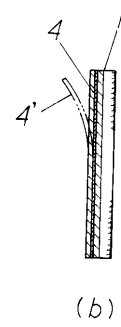
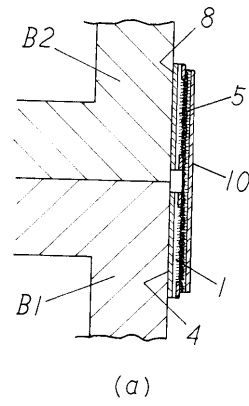
１０ … 雌型面状ファスナー

40

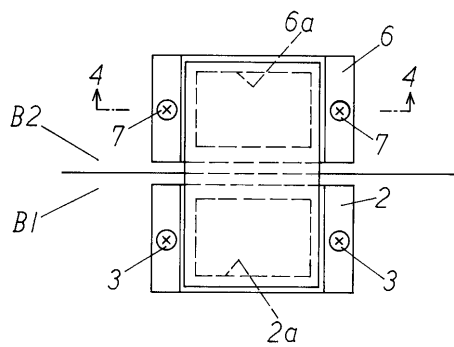
【 図 1 】



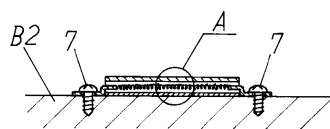
【 図 2 】



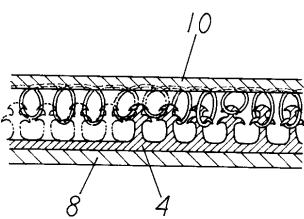
【 図 3 】



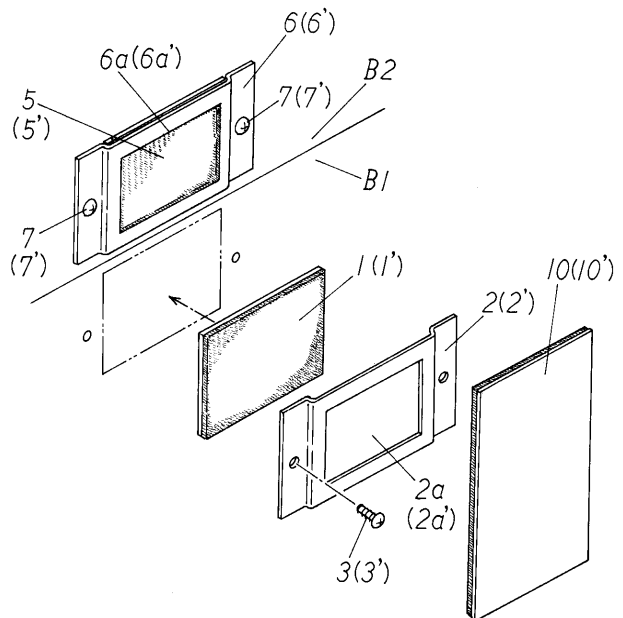
【 図 4 】



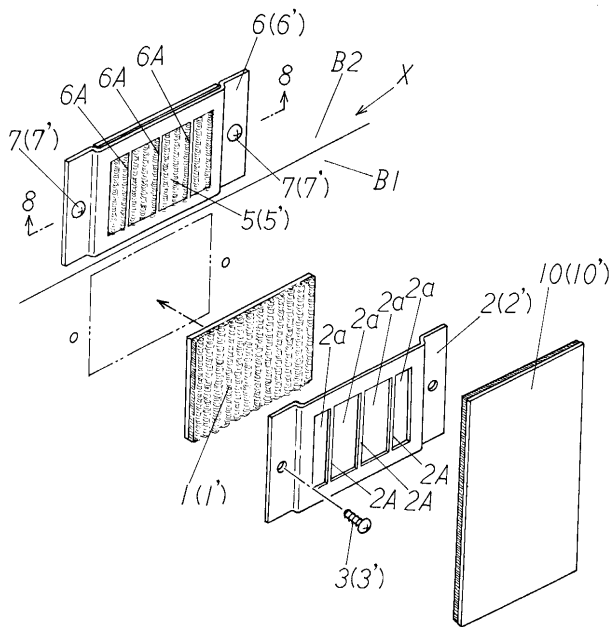
【 図 5 】



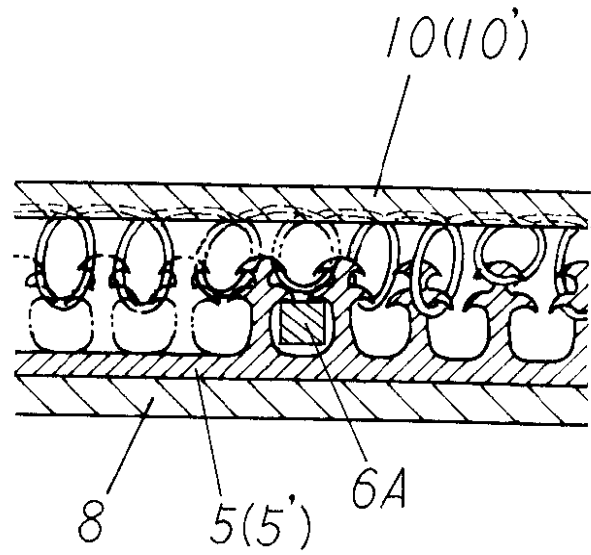
【 図 6 】



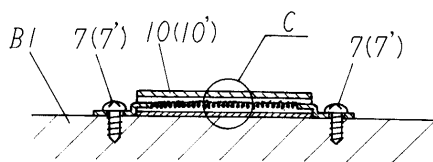
【図 7】



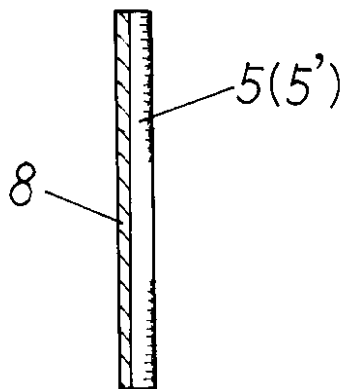
【図 9】



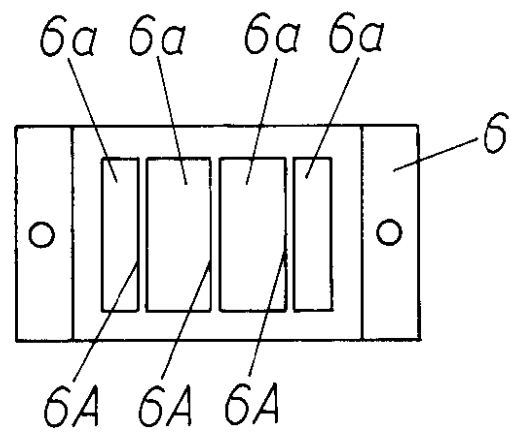
【図 8】



【図 10】



【図 11】



【図 12】

